中学社会通信　2014年 春号

Socio express
エクスプレス

社会科教育法

中学校社会科における「わかる」ことと言語活動／豊田憲一郎 2

授業実践レポート

言語活動能力の向上をめざした授業実践／相吉澤諭 6

時代を大観し，表現するグループ学習／窄　政吾 8

経済学習における「協同的な学び」を取り入れた授業づくり／永井　正 10

教育出版

中学校社会科における「わかる」ことと言語活動

豊田　憲一郎

●とよだ　けんいちろう／九州ルーテル学院大学教授

●1．はじめに

私は，社会科の授業で生徒が本当に「わかる」ということについては，次の２点がキーワードとなると考えている。

①学習対象である社会的事象を論理的に理解するだけでなく，その事象を取り巻く人間や状況，さらにはその社会的意義までわかること。

②自分がわかったと思っている内容を言葉で表現し，人に伝えることにより，「わかり方」が確かなものになっていくこと。

本稿では，この２点について詳述する。

●2．「わかり方」の過程

生徒が学習内容をわかっていく過程について，私は，おおよそ次の四つのレベルを考えている。

以下，高齢者福祉の学習を例として，この四つのレベルについて述べる。

(1)用語がわかる

まず，第一のレベルは，用語としての理解，「用語がわかる」である。例えば，介護保険や，在宅介護，デイサービスなどの用語を，別々のこととして理解しているといった程度の「わかる」が，それであると考える。これは，個別的な知識がわかる「わかり方」であり，それは「個別的事実理解」ともいえる。

いうまでもないが，この「用語がわかる」というのは，用語の内容を知るということである。つまり，用語という記号に，具体的な意味づけができているということである。

用語に意味づけをするためには，その用語に対応する経験をもっていることが必要となる。また，この経験の多少によって，用語理解の程度が決まってくるともいえる。例えば，バリアフリーという用語の場合も，車椅子やアイマスクなどを使った模擬体験をすることにより，この用語の実態を五感でリアルに理解できるわけである。

このように，事象としての用語が「わかる」ということは，経験と言葉を結びつけることだと言い換えてもよいと考えられる。したがって，「わかる」ためには，生徒にできるだけ豊富な社会体験や自然体験を積ませることが重要になってくる。

しかし，この体験は直接体験だけをさすのではない。物語を読んだり，人から話を聞いたりして得た感動体験や共感体験なども，直接体験に劣らず，重要となる。読書などの間接体験が必要なゆえんである。このように考えると，授業でも，資料の吟味が求められることになる。

ここまで見てきたように，「用語がわかる」ためには，経験に裏づけられた知識をどれだけ豊富にできるかということが，大きなポイントとなると考えられる。

(2)概念がわかる

第二のレベルは，ある事柄と別の事柄を関

連づけて捉え，個々のものがどうかかわって構造的なまとまりをもっているかを理解することである。

高齢者福祉の学習の例でいえば，在宅介護やデイサービス，ショートステイ，ホームヘルパー，特別養護老人ホームなどを関連づけて，我が国の老人福祉の現状を説明できるという段階までの「わかり方」である。これは，「概念がわかる」という「わかり方」であるといえる。事象の科学的な理解という観点からは，このレベルまでの理解が，これまで目安とされてきたと考えられる。

このレベルまで「わかり方」を深めるには，第一のレベルで獲得したそれぞれの個別的な知識を，ある問題意識のもとに論理的に関連づけ，一貫した全体像に構成する必要がある。

そのための指導としては，発問構成が大きなポイントとなると考えられる。それは，発問によって，生徒が，個別的な知識を整合的に関連づけることができるからである。

そして，そのような発問の代表的なものとしては，「なぜ」と問いかける発問と，「どのような」と問いかける発問がある。それは，「なぜ」「どのような」という大きな発問で原因を問い，あるいは条件を問うことにより，その問いを通して，個別的な知識を整合的に関連づけることができるからである。そのようにして「わかった」社会的な事象は一貫性をもっているから，生徒は論理的に理解でき，筋道を立てて説明することができるようになると考えられる。

授業では，これらの問いを課題として，課題解決学習的な手法で展開することにより，事象の全体像としての構図や仕組み，あるいは因果や条件などの関係を，論理的に把握させることができると考えられる。

(3)人の気持ちや状況がわかる

第三のレベルは，高齢社会における高齢者の方々の願いや不安，あるいはその家族の悩みなどを，その人たちの立場に立って理解できるという段階の「わかり方」である。つまり，それぞれの事柄を担っている人物の苦労や願い，あるいは痛みなどが，実感をもって理解できるという段階までの理解である。

これは，「状況理解」，あるいは「人間理解」とも言い換えられると思うが，要するに「人の気持ちや状況がわかる（あるいは見えてくる）」という「わかり方」である。

このようなレベルに達するために肝心となるのは，イメージ機能の一つである想像力の発揮であると考えられる。ここでいう想像力は，目に見えないものも感性を伴って思い浮かべることができる能力のことである。

そして，この想像力の源泉となるのも，生徒自身の体験にかかっているといえる。それは，第二のレベルで，概念として理解した内容が，具体的にはどのような状況であるのかを生徒自身の個人的・主観的な経験などに基づいて想像し，再構成した，より柔軟なメンタルモデルがこの段階であるといえるからである。高齢者福祉の学習でいえば，高齢者に関する施設などを訪問したり，交流を図ったりする体験などがポイントとなろう。

(4)意義がわかる

第四のレベルは，高齢者福祉を含む我が国のこれからの社会保障制度のあり方及び課題

に気づき，自分なりに根拠に基づいて価値判断できる段階である。これは,「意義がわかる」という「わかり方」であると考える。

社会科教育で求められる意義とは,「公民的資質の育成」という目標に鑑みて，現在の日本社会で求められている公民としての価値観である，民主主義社会の形成にかかわる意義であると考えられるが，それは一様ではなく，定まったものでもない。

例えば，社会保障制度に関する意義を考えてみても，授業では，アメリカに代表される自己責任中心の制度と，ヨーロッパに代表される公的支援を重んじる制度との，比較や考察などによる価値判断が意義追究の事例として考えられる。

つまり，この第四のレベルの授業では，民主主義社会の意義に関して，多様な価値観を含む課題を取り上げ，どう価値判断していくかという流れになるであろう。

●3.「わかり方」を確かにする言語活動

前節では,「わかり方」の深化のレベルについて述べた。しかし, 本当にわかるためには, もう一つのステップが必要だと考えられる。

それは，自分がわかったと思っていることを表現し，人に伝えることである。

なぜなら，人に伝えるには，自分がわかったと思っているイメージ内容を，もう一度整理し, 明確化しなければならないからである。きちんとわかっているのか，それとも，わかったつもりだったのかは，一度その内容を自分の言葉などで表現してみるとはっきりする。自分の言葉で表現することができなければ，本当にわかったということにはならないだろう。うまく表現できない場合は，表現するために，さらにイメージ内容を筋道立ったものに修正・加工し，人に伝えられるように再構成･再再構成することになり，このことは，自分自身の理解を深めていくことにもなる。

このように，言語表現は，イメージ内容を時間的・空間的に整理し，分類し，秩序をもたらし，その結果，わかったと思っているイメージ内容を明確化する過程だともいえる。

したがって，言語による表現活動は,「わかり方」を深め，確かなものにするために大変重要になってくる。

そこで，言語表現活動に焦点をあてた事例として，私が熊本大学教育学部附属中学校在籍時に実践した歴史的分野の授業を，次に取り上げる。

これは，１年生を対象として実践した弥生時代の授業である。

なお，言語の表現には，話し言葉と書き言葉があるが，この実践では生徒がより自覚的に言語生成を行う書き言葉を対象とした。

言語表現活動における指導上の工夫の視点としては，主に次の３点を重視した。

①作文の形式として，物語的な構成をとらせる。

②文体は，語り言葉的な文体を使用させる。

③表現方法としては，比喩的な表現なども活用させる。

そして，これらの視点を意識しながら，生徒に具体的に言語表現させる実践的な手だてとして，当時の人々に手紙を書かせるという「手紙形式」や, その時代を物語化させる「物語形式」などの方法を試みた。

具体的には，吉野ヶ里遺跡を取り上げ，「なぜ，吉野ヶ里のような集落が弥生時代になると現れたのだろうか」という課題を設定して，追究させ，授業の最後に「学習シート」を使って，生徒に各自の弥生時代像を語らせるという方法をとった。

そこで，「学習シート」は，「弥生人にインタビュー」という形式をとり，生徒に弥生人になりきらせて，一人称で，いわば疑似体験的に語らせるというレトリック的な方法で行った。そして，インタビューの問いの内容は，学習課題との関連から「昔（縄文時代）と比べて，あなたがたのくらしや社会はどのように変わったと思いますか」と設定した。

生徒が取り組んだ「学習シート」の記述の一例を，生徒の表現通りに次に示す。

○そうですねえ。あなた方の言うとおり，確かに変わりました。土器はうすでになり，文様を省き，かざりも少なくなりました。しかし，何といっても，大陸から渡ってきた『稲作』のパワーは，すごいものでした。はじめは，私も，食料を計画的につくれるし，たくわえまでできるから，便利だなと思っていましたが，稲作の指導をしていた人たちが，いつしか，私たちを支配するようになってしまったのです。うちの父が言っていました。「おまえのな，ずーっと，ずーっと，むかしのおじいちゃんたちはな，みんなで一つの獲物をつかまえて，みんなで分けて食べていたんだよ。」と…。だけど，頑張っていきたいと思います。ああ，あなた，この土器もっていってくださいよ。はい，あげます。

（○年○組○○○○○）

↑ 生徒の記述

「学習シート」の記述を分析してみると，上述の事例に代表されるように，生徒の記述・文体が，相手を意識した，人に語りかけるような表現になっており，「すごい」などの感動を表す言葉が使用され，また「稲作のパワー」などといった比喩的な表現も一部みられた。全体的に，歴史的事象を自分なりに捉えなおして，できるだけ自分の言葉で表現して伝えようとしている意識が感じられた。

また，「わかり方」の観点からも，暮らしや社会の変化を，農耕（稲作）の開始と関連づけて述べており，歴史的意義の理解の深化もうかがえる。

もちろん，この実践は一つの試みであり，さらなる実践による検証が必要である。そういった意味からも，問題提起の事例として提示したしだいである。（なお，この実践についての分析・考察の詳細は，拙著『わかる社会科授業におけるイメージと言語活動』熊日情報文化センター，2012年，を参照いただければ幸いである。）

●4．おわりに

本稿では，「わかり方」の過程と，言語活動の効果について述べた。民主主義社会における多様な価値観を互いにわかり合い，共有する共生社会を築いていくことが求められている現在，言語コミュニケーション活動を重視した社会科授業の役割はますます大きくなってきているのではないだろうか。

言語活動能力の向上をめざした授業実践
～「世界の諸地域」学習におけるグループワークの授業を通して～

相吉澤　諭

●あいよしざわ　さとし／神奈川県川崎市立中野島中学校

1．はじめに

学習指導要領においては，言語活動の充実がうたわれています。その主眼とするところは，以下の三つに大別されると考えられます。①基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成（従来の知識注入型の授業からの脱却），②自己表現能力（プレゼンテーション能力）の育成，③主体的に学習に取り組む態度の育成です。これらの能力の育成を目ざした授業改善の一環として，グループワークを取り入れた授業実践を行いました。本稿はその取り組みの報告です。

2．実践の内容

まず，１時限の授業を大きく二つに分けました。前半は，その単元の中で必要な基本的知識の習得・理解にあてます。これは今までのような，知識注入的な授業です。思考力・判断力・表現力を育成するために必要な知識の理解です。これがなければ，思考，判断，表現することはできません。その知識を活用して後半のグループワークを行います。

グループでの活動は，人数が少なすぎると個々の負担が大きくなり，話し合いが深まりにくく，また，人数が多すぎると個々の役割が希薄化して，他者への依存が増してしまうため，一つのグループは，４名で構成します。

グループの中から，１名ずつ司会者と発表者を決めます。そうすると，２回に１回はどちらかの役割がまわってくることとなり，司会をしたり，発表したりする機会を与えられます。普段はあまり発言しない生徒も，少人数のグループの中では，自分の意見をきちんと発表できることが多いようです。

そして，表現力を向上させるためには，人の意見を聞く力，聞きとる力，聞いたことをきちんと整理できる力を育てなければなりません。そういった力を育成する原点が，グループ内での討論･話し合いの中にはあります。話し手としての力や，聴き手としての力を同時に育成することが，コミュニケーション能力の向上，ひいては自己表現能力の向上につながると考えられます。

グループワークは，以下の段階で進めます。

①まず，主題について個人の意見や考えをまとめる。（授業前半の基本的な知識の習得・理解を活用します）

②それを各グループの中で発表し合い，意見交換を通して，グループとしての意見を話し合いで形成します。それは，お互いの学び合いの場でもあります。自分の思いや意見を発表するだけではなく，他者の意見を聞いて学ぶことや，自分がわからなかったことを教えてもらうこと，互いの意見からより深められた意見にたどり着くことができます。（自己表現能力・プレゼンテーショ

ン能力の育成につながります）

③各グループで予め決めておいた発表者が，順に発表していきます。

④教師がその発表をまとめ，そのまとめを聞いた生徒が，もう一度，主題について個人の考えをまとめます。その中で，自分の思考力・判断力をより深めます。

⑤その流れを記入したグループワークのシートを提出します。（そのシートをもとに，教師が評価を行います）

●3．主題の設定

グループワークを行うときにも，どのように１時限の中での主題を設定するかということが重要です。また，そのためには，その章全体を貫く主題設定を考えることが大切です。

例えば，１年社会科地理的分野の学習では，ひとつひとつの視点を系統的にとらえ，そこから，現代社会の問題点について考えていく主題を設定し，貿易，情報，産業などの個々の問題点からグローバル社会の問題点を考察していくことが大切です。世界の諸地域「アジア州」の取り扱いを例にしてみましょう。

１節では，地形や気候の特色をとらえ，アジアの各地域区分の地形や気候の特色について整理します。その地形や気候を前提にしてそれ以降の部分を考えていきます。２節では「なぜアジアは世界一の人口集中地域なのか」を考え，そこから「中国の一人っ子政策による中国の社会変化の問題点」について話し合います。３節の農業では，前節の人口の多さと農業生産の関係から，米を輸出しないほど人口の多い中国が「特定の農産物を輸出している理由」を考えさせます。４節の工業では，日本の工業がアジアに進出している理由を理解したうえで，「中国の工業の特色とそこから考えられる問題点」について考えさせます。最後のまとめとして，この四つの主題を通してグローバル社会の一員としてのアジアの人口，農業，工業は世界とどのようなつながりをもっているのかを考えていきます。

●4．まとめ

このグループワークの授業実践を通しての一番の目的は，言語活動を通して，生徒の思考・判断・表現する能力を「鍛える」ということです。「鍛える」とは，決して厳しいことを生徒に課すことではありません。生徒が，授業が「わかる」ためにアプローチしていくさまざまな方法を考えていくということです。

そのさまざまな方法とは，資料などを参考にして，各自の考えをまとめること，自己の考えをプレゼンテーションできること，互いに学び合いをすること，学び合いから生徒相互がさらなる発見をすること，他者の考えを聴覚をつかってとらえること，そしてそれを自分なりにまとめ整理すること，生徒相互が他者肯定感をもつこと，他者の発表からさらに思考を深めていくことなどです。

言語活動の充実のねらいは，生徒が将来社会で求められる「力」が，変化したことに起因しています。つまり，基礎的・基本的な知識を得るのみではなく，それをどのように活用して課題を解決するかという能力を育成するために，思考力・判断力・表現力を育てていくことが必要です。その能力を育むために，グループワークを取り入れた授業実践の取り組みをさらに続けていきたいと思います。

時代を大観し，表現するグループ学習

窄　政吾

●さこ　せいご／長崎県諫早市立小長井中学校

1．はじめに

学習指導要領では，（1）「歴史のとらえ方」として，「ウ，学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して，各時代の特色をとらえさせる。」と示されている。「時代を大観し表現する活動」とは，学習した内容の比較や関連づけなどを通して，各時代の特色を大きくとらえ，言葉や図などで表したり，互いに意見交換したりする学習活動である。これによって，各時代の特色を生徒が自分の言葉で表現できるような「確かな理解と定着を図ること」，「思考力・判断力・表現力等を養うこと」が求められている。

本稿では，グループ学習を効果的に取り入れることによって「時代を大観し表現する活動」の充実･深化を意図した実践を紹介する。

グループ学習では，一斉授業に比べて，生徒がより主体的に授業に参加することができる。一斉授業では表現できなくても，グループ内では，自分の意見を述べたり，他者の意見を聞いたりしながら，自分の考えを再確認，再構築することができる。グループ学習での言語活動を通して，生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図り，歴史的事項について説明する力，話し合う力，提言する力を身につけることができる。

しかしながら，実際には，グループ内での学習活動は必ずしも理想とする学習プロセスとはなっていない場合も多く，一部の生徒による情報共有，意思決定が行われている場合も少なくない。これは，グループ学習のあり方に課題があると考えられる。今回は，グループ内の全員に表現する機会を与え，他者に言葉や図，絵などさまざまな表現方法を用いて伝えることを通して，グループ構成員の全員が，主体的に授業へ参画し，歴史学習における思考力・判断力・表現力の向上を図った。

2．単元について

単元「第３章　中世の日本と世界」
小単元「元寇と鎌倉幕府の滅亡」
目標「元寇が幕府政治に及ぼした影響や，鎌倉幕府が滅亡した要因について，理解させる。」

この小単元では，元軍が日本に襲来したときの戦いの様子や結果，その後の幕府滅亡に着目して進める学習である。小単元の目標を踏まえ，本時は，元寇以前の分割相続，元寇以後の徳政令と関連づけながら，「鎌倉幕府が滅亡した要因」を追究することを通して，鎌倉時代を大観し，表現できる学習にしたいと考える。

3．授業の実際

（1）本時の授業過程

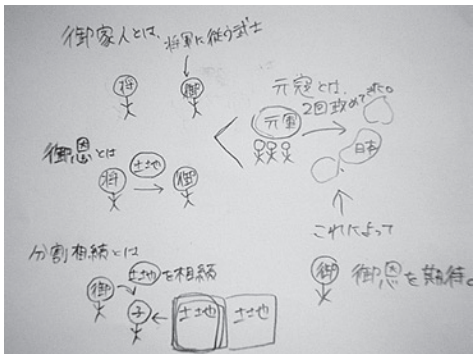
本時では，情報カードを用意し，その中に書かれているさまざまな情報からわかることをグループ内で思考・判断し，図式や文章に

みなさんの課題は，グループで「鎌倉幕府が滅亡した要因」について考えることです。必要な情報は，情報カードの中にあります。

【課題解決のルール】

1　各自がもっている情報は，自分の言葉で伝えてください。
2　他のメンバーに情報カードを見せたり，見せてもらったりしないでください。
3　情報カードを書き写して，一覧表にするようなことはしないでください。
4　各グループに配られている用紙は，情報を出し合う際に，メモをとったり図にまとめたりするのに使ってください。
5　作業の時間は20分間です。

指示書



生徒の記述

して表現するグループ学習を展開する。

①１班４名のグループに分ける。

②各班に対して指示書(作業手順を示したもの)を提示する。

③24枚の情報カード(鎌倉幕府の滅亡の要因に関するさまざまな情報が断片的に書かれているカード)を各班に配布し，さらに班の中で均等(一人６枚)になるようにカードを分け，作業をスタートする。なお，情報カードでは，主に，分割相続・封建制度・元寇・徳政令についての情報を与える。

元寇では，新たな土地を得ることができなかった。	元寇で，御家人は将軍のために戦った。
元寇とは，元軍が日本に二度攻めてきたことである。	元寇の後，御家人は御恩を期待した。

情報カードの例

④グループ内の生徒たちは，言葉や図，絵などを使って，自分が持っている情報カードの内容を互いに伝え合い，まとめていく。

⑤班ごとに作業結果を発表する。

⑥教師による解説。

⑦ふりかえり(自己評価)。

(2)授業における生徒の活動

生徒がグループ学習で作成した記述を見てみると，それぞれの生徒が，自分が持っているカードの情報を他者に伝え，その情報をグループ内で思考・判断しながらまとめていることがうかがえる。

その後の発表では，分割相続による御家人の現状を踏まえ，元寇や徳政令と関連づけながら，この時代(幕府)が御家人に支えられていたことを導き出そうとする様子が見られた。

●4．おわりに

授業前と授業後のアンケートを比較してみると，「自分の意見や考えを述べることができる」は32%から72%に，「他者の意見を聞くことができる」は40%から87%と，いずれの項目でも２倍以上の向上を見ることができた。さらに「自分の意見を言うだけでなく，人の意見を聞いて『なるほど』と思った意見があれば，それを書きとめたりしながら班の意見を一つにまとめていった」という意見もあった。そのことから，生徒の思考や判断力，表現力を高める有効なグループ学習であったと考える。今後も創意工夫しながら，グループ学習を取り入れ，生徒の思考・判断・表現力の向上を図っていきたい。

経済学習における「協同的な学び」を取り入れた授業づくり

永井　正

●ながい　ただし／大阪府八尾市立久宝寺中学校

●1．はじめに

第46回全国中学校社会科教育研究大会が，大阪で開催されるにあたって，「協同的な学び」を取り入れつつ，大阪の生徒たちの実態をふまえ，授業者の個性を大切にした授業づくりをめざし，発表を行った。

公民的分野では，「対立」と「合意」，「効率」と「公正」の概念をもとに，社会と直接つながる教材研究と課題設定のあり方について取り組んだ。そこで，一人ひとりの学びが成立するための社会科学習をテーマにし，大阪市，北河内地区，中河内地区，南河内地区を中心に研究活動を積極的に進めた。

今回，研究・発表を行った経済領域では，主に価格決定のプロセスやしくみなどについて検討を重ねた。生徒の生活に身近な題材であり，生徒が対話活動に取り組みやすいものを課題の対象とするのがふさわしいと考え，年間を通じて価格変動の少ない工業製品を中心に，なじみのある農産物などを取り上げることにした。

●2．授業の構成

実物教材を利用して，モノ・コト・ヒトと出会い，対話活動を行う。そして，いわゆる「教科書レベル」の誰もが到達できるような共有課題と，教科の本質にせまる発展的課題に取り組む。こうした課題に取り組み，他者の考えや教材・資料の異なった見方，新たな課題などと「交わる」ことで生徒自身がテキストや社会と深く「つながり」，質の高い学びへと展開する。そのうえで，「どうしてそう考えたのか。」「教科書のどこに書いてあるのか教えて。」と根拠を問い，教科書に「戻す」ことも行う。授業者は一方的に事柄を説明するのではなく，生徒たちによる対話的・協同的で，かつ課題のねらいに沿った反省的な学習活動を実現して，その単元の本質的な内容に迫っていくのである。

このように，生徒どうしが「交わる」・「つながる」・「もどす」ことを行い，その後，改めて生徒一人ひとりがそれぞれの課題と向き合い，学びが深化するような授業構成をめざした。

さらに発展的課題については，それぞれの単元の本質を貫くことをねらいとして，多様な見方や考え方が身につき，社会参画につながるようなものを設定し，検討・検証を行ってきた。

実物教材等を利用した意欲喚起（コの字）
↓　ＷＳ・資料提示（授業者）
資料教材にもとづく共有課題（グループ）
↓　交わる・つなぐ・もどす
質の高い学びへの発展的課題（グループ）
↓　交わる・つなぐ・もどす
自らの考えの表現，生き方の変化（コの字）

公民授業の流れ

●3．単元の観点別評価規準

表を参照。

関心・意欲・態度	○個人の消費生活に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，経済活動の意義を考えようとしている。
思考・判断・表現	○商業の役割を知り，そこから流通のしくみ，問屋や卸売の社会的意義について考察している。 ○市場経済のしくみや，価格のはたらきと決まり方について多面的・多角的に考察している。
技能	○価格や消費生活に関わるさまざまな資料を適切に読み取ることができる。 ○価格と需要量・供給量との関係をグラフで描くことができる。
知識・理解	○市場経済の基本的な考え方について理解し，その知識を身につけている。

↑ 単元の観点別評価規準

●4．単元の課題

1限目　家計の収支

共有課題：ある会社員の家計収支を見て，どのようにお金を使っているか。必要な支出は何かを考えよう。

発展的課題：25年後の収支から貯蓄を増やす方法と目的を考えてみよう。（税・社会保険料は収入から予めひかれているものとみなす。）

2限目　流通のしくみ

共有課題：問屋とはどんな仕事？松屋町を例に考えてみよう。

発展的課題：問屋という仕事の役割を考えよう。

3限目　市場のしくみ

共有課題1：あなたは生産者（農家）です。キャベツとタマネギのどちらを生産しますか。

共有課題2：菓子パン3個，いくらなら買いますか。

発展的課題：世の中が不景気になり，人々の収入が減ったとき，需要曲線はどのように移動すると考えられますか。国産牛肉の場合と安売りされているカップ麺の場合で考えよう。

4限目　価格の決まり方

共有課題1：きゅうりの価格変動は，何と関係があるのか。

共有課題2：ボディーペーパー，なんぼで買う？

発展的課題：なぜ，ボディーペーパー（季節商品）の価格は変化しないのだろうか。

●5．おわりに

「協同的な学び」を生かした授業をめざした結果，少しずつ生徒たちの対話活動が増え，互いに学びあう姿がみられるようになった。研究活動に取り組む中で，教材開発や教科の研究が進み，活発な意見交流を行い，研究委員相互の同僚性を深めることができた。これらは研究の大きな成果となった。

一方で，研究の課題も残った。共有課題と発展的課題のある二段階学習指導案の作成である。共有課題とそれを活用する教科単元の本質を問う発展的課題の設定は，学びの成立にとっての重要なポイントとなるものであるが，その設定が難しい。また，グループ活動における授業者の学習支援のあり方，授業の進度や評価といった課題もある。今後，これらの課題の解決を探っていきたい。

第12回

地球となかよし メッセージ 作品募集（2014年度）

「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたことを，写真（またはイラスト）にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に参加賞がもらえるよ！

応募資格	小学生・中学生（数名のグループ単位での応募も可）
応募期間	2014年7月1日 ～ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧下さい。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや，自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して，友好の輪を広げた体験，異文化交流，国際理解に関すること ③その他，「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたこと

◎主催／教育出版　◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省，日本環境協会，全国小中学校環境教育研究会，毎日新聞社，毎日小学生新聞
＊協賛・後援団体は昨年実績で，継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

教育出版　「地球となかよし」事務局　TEL. 03-3238-6862　FAX. 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町２－10

前回入選作品

ぼくらは，守られている

この写真なんだかわかりますか。これは，ぼくの小学校の前の道だ。この道には，青とオレンジと白色の三角のとがった形の変わったもようがかかれている。
これは，ソリッドシートという名前のもようで，車を運転する人には，道がでこぼこしているように見えて，注意し，ゆっくりと走ってもらうためのものだそうだ。
ただの落書きではなく，ぼくたちみんなを守るためにえがかれていることがわかった。ぼくらが毎日安全に登校できるのは，このような変わった形のもようのおかげなんだなぁと思った。
運転手さん，このもようを見たら，ゆっくりやさしく走ってくださいね。

【表紙写真】ベネチアにある，サン・マルコ広場の鐘楼からの眺め。歴史的な街並みのなかを，船が行き来しているのが見える（上写真）。ローマのスペイン広場。教会に続く階段は映画「ローマの休日」のワンシーンでも有名（下写真）。〔2013年　イタリア〕

中学社会通信　Socio express　〔2014年　春号〕　2014年3月31日　発行

編　集：教育出版株式会社編集局
印　刷：大日本印刷株式会社

発　行：教育出版株式会社　代表者：小林一光
発行所：教育出版株式会社
〒101－0051　東京都千代田区神田神保町2－10　電話　03－3238－6864（お問い合わせ）
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。
わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060－0003 札幌市中央区北3条西3－1－44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011－231－3445　FAX：011－231－3509
函館営業所	〒040－0011 函館市本町6－7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138－51－0886　FAX：0138－31－0198
東北支社	〒980－0014 仙台市青葉区本町1－14－18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022－227－0391　FAX：022－227－0395
中部支社	〒460－0011 名古屋市中区大須4－10－40 カジウラテックスビル 5F TEL：052－262－0821　FAX：052－262－0825
関西支社	〒541－0056 大阪市中央区久太郎町1－6－27 ヨシカワビル 7F TEL：06－6261－9221　FAX：06－6261－9401
中国支社	〒730－0051 広島市中区大手町3－7－2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082－249－6033　FAX：082－249－6040
四国支社	〒790－0004 松山市大街道3－6－1 岡崎産業ビル 5F TEL：089－943－7193　FAX：089－943－7134
九州支社	〒812－0007 福岡市博多区東比恵2－11－30 クレセント東福岡 E室 TEL：092－433－5100　FAX：092－433－5140
沖縄営業所	〒901－0155 那覇市金城3－8－9 一粒ビル 3F TEL：098－859－1411　FAX：098－859－1411